

問題

以下のA(音楽), B(美術)から、一題を選んで論述しなさい。

選んだ問題の記号を、解答用紙の【 】に必ず記入すること。

(注意事項: 解答用紙の1マスを1字とする。句読点も、行末の場合を除き1字と数える。

算用数字やアルファベットは、1マスを2文字としてよい。)

\* 原文が常用漢字以外のところは、一部「ふりがな」をふってある。

\* 出題に当たり、原文の一部を変えている。

A. 次の資料は久保田慶一編集代表『楽譜でわかる20世紀音楽』(アルテスパブリッシング, 2020年)から、長島剛子+梅本実著「第7章 語りと歌の狭間で—シェーンベルクの表現主義」を一部抜粋したものである。これを読んで、下の(1)(2)の設問に答えなさい。

この部分に記載されている文章  
については著作権法等の問題か  
ら公表することができませんの  
でご了承願います。

この部分に記載されている文章  
については著作権法等の問題か  
ら公表することができませんの  
でご了承願います。

(1) 19世紀末から20世紀にかけて生まれた音楽技法から、あなたが知っているものを一つ選び、300字以内で述べなさい。

(2) 《月に憑かれたピエロ》の序文から感じ取れるシェーンベルクが求める表現様式を、資料と関連付けつつ、あなたの自身の知識や経験を交え、700字以内で論じなさい。

B. 次の資料は、奥村高明著『エグゼクティブは美術館に集うー「脳力」を覚醒する美術鑑賞』（光村図書出版、2015年）から一部抜粋したものである。これを読んで、下の（1）（2）の設問に答えなさい。

この部分に記載されている文章については著作権法等の問題から公表することができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については著作権法等の問題から公表することができませんのでご了承願います。

- (1) 美術や創造性について、なぜこのような内容の話がされるようになったのでしょうか。その背景について、資料、自身が美術作品を制作・鑑賞するときの思考や判断、社会の変化などを手掛かりに、思い付いたことを300字以内で記述しなさい。
- (2) 創造性や美術作品を制作したり鑑賞したりするときに使う能力に関するあなたの考えを、資料と関連付けながら、あなた自身の知識や経験を交え、700字以内で論じなさい。

# 令和5年度入学試験 小論文「出題意図」

(入試情報公開用)

人間発達文化学類 総合型選抜入試 芸術・表現コース

音楽または美術に関する文書資料を提示し、それに関して1000字程度で論述させることにより、読解力、論述能力、および芸術に関する知識や関心を総合的に見ることをねらいとする。